



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69・3706

図書館へ行こう

◆時々登場！ミニ特集

その時々のお話の出来事や文学賞を受賞した作家、季節の本などを集めて紹介しています。軽読書コーナーの少しマニアックな記念日特集も好評です。

バレンタインデーミニ特集開催中

デパートやスーパー、コンビニなどにチョコレートが並び始めるこの季節に登場！手作り派のためのお菓子の本、おしゃれなラッピングの本、チョコレートの秘密を紹介する本もありますよ。



図書館でミニ特集コーナーを見かけたらぜひチェックしてくださいね♪



図書館に入った本

毎月1,000冊以上の本が入ります。一部をご紹介します♪



『秀吉の活』
木下 昌輝／著 幻冬舎



『火定』
澤田 瞳子／著 PHP 研究所
『桃紅一〇五歳好きなものと生きる』
篠田 桃紅／著 世界文化社



『一皿でござそう！わたしの煮込み料理』
若山 曜子／著 宝島社
『農家が教えるもち百珍』
農文協／編 農山漁村文化協会



『頭がよくなる子どもとの遊びかた』
小川 大介／著 大和書房
『卒母のスズメ』
西原 理恵子＋卒母ーズ／著 毎日新聞出版



『ぽかトレ』
本島 彩帆里／著 マガジンハウス



『捨て猫に拾われた男』
梅田 悟司／著 日本経済新聞出版社

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

読む



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68・2059

再オープン準備の事件録

■オープン作業での事件

元旦からの再オープンに向けて、準備できるものはどんどんやっていき余裕を持ってオープンを迎えよう、と予定していたのですが結局なんだかんだで大みそかのぎりぎりまで全員出勤して悪あがきの準備をしました。ヒソカにみんなで予定していた「クリスマス」のプレゼント交換会は忙しくてクリスマスにはできず、「大みそか」のちよとした休み時間に無理矢理実行しました。

■なぜ洪水は起こるのか

洪水は往々にして忙しい時に起こることがほとんどで私の犯歴の場合、水槽に水を足しておいてそのままアシカショーをやる。ショーを終えて帰ってくるとちょうど水が水槽にたまっていく。これぞプロの技。時間の有効利用。という算段ですがこう

準備中にスタッフも工事業者も一番困ったのが突然の「水槽の洪水」でした。この連載でも散発的に話題に上る館内大洪水はオープンまでの作業中に幾度となく発生し労働者たちを苦痛の渦に陥れました。

■洪水処理

洪水が起ると、まず不幸なのはそれを一番見つけてしまう事です。本来、絶対に水があつてはならない

いう時に限ってショーが上出来で満ちて事務所に帰りコーヒーなんか飲んで余韻に浸ってしまう。すっかり水槽の事は忘れていて洪水事件発生。工事中もほとんどのスタッフが本来の作業と掛け持ちで別の作業をし、そちらに夢中になって「注水している事」を忘れる事が多く、他にはバルブ操作のミス、排水溝に許容量以上の水を流し過ぎて逆流洪水などもあります。洪水が起る場所はだいたいの古い展示コーナーで、新設された新しいコーナーは洪水対策が施された設計になっています。

場所には大きな水たまりがあり、どんなに拡大していく様は、夢であつて欲しいと思います。その光景を見て思考停止して呆然と立ち尽くすスタッフもいます。すぐさま方向転換してスタッフを呼びに行くのですが、もう時は遅いことは知っているのにむやみに走らず歩いて応援部隊を呼びにいけます。各部署に散っていた他のスタッフが集まります。思わず「おお」と声を漏らす者もいれば、虚空を見つめ黙る者、力を落とす者、だれる者、静かに雑巾やモップを持ち一人として怒ったり犯人を責めたりしません。なぜなら皆、洪水を過去に起こしたことがあり、起こしてしまつた人の辛さや気持ちが分かるからです。